

日本創傷治癒学会評議員選考委員会の活動方針

評議員選考委員会委員長 中島 龍夫

1. 評議員の選考基準。

創傷治癒学会学術集会での実績だけでなくその候補者のこれまでの研究歴、活動歴を考慮しこれに創傷治癒学会とそれに関連した学会での発表歴を選考基準に加える。

業績評価も重要だが学会の発展を考えると、各大学、施設の研究室などで指導的立場におられる方を重視したい。

各分野の会員数に応じ、各分野での研究、臨床で業績がある者を選任する。(各分野からの推薦でも良い)

2. 評議員の再任方針。

まず日本創傷治癒学会会則施行細則VII(3)を厳密に運用する。(評議員は理由なく連続して3回評議員会を欠席した場合、その資格を失う。)

次に最近3年間の創傷治癒学会学術集会での発表歴と創傷治癒関連分野における業績(論文以外の研究、臨床活動も含める)を点数化し再任の選定基準とする。

すでに評議員として選任されている以上、創傷治癒学会学術集会での業績評価による再審査をあまり厳密にすると、会員離れが生じることが危惧される。そのため、関連学会での活動も評価に加える。

3. 理事を選挙で決めるかどうか:

本学会は創傷治癒に関与する各科の横断的な学会である。理想的には理事は評議員の互選で選出されるべきであるが、単に投票数のみによる選出を行うと他の領域の先生の研究内容と価値がよく理解できない場合があり投票に難渋する場合が想定される。また数の論理のみの理事選では後日しこりを残す恐れがある。そのため選挙による理事選出は避けたいと考える。

その解決法として、各分野の会員数に応じて理事数を配分し、具体的な人選については各分野別の推薦や選挙により理事候補を答申してもらい、業績等の開示を受け評議員会で承認する方法が考えられる。



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2009.10
No.53

● 日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel. 03-3353-1211

(内線62269)

fax. 03-3353-2681

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

また、理事の若返りをはかり、活力のある理事会にするためには理事長及び理事の任期を2年とし再任を1回までとして、その後2年経った後に、理事復帰を検討するなどの制度変更が望ましい。

4. 創傷治癒学会の今後の活動。

それぞれの科の創傷治癒に関わる活動領域、活動内容は異なるので、それらの活動をこの学会がすべて束ね、統制するのは無理と思われる。また、テーマを特化させて、対象を狭い領域(たとえば、基礎研究系、再生医療など)に絞ってしまうと参加者の減少につながりかねない。そのため本委員会としてはつぎのような方向性を提案したい。

外科領域の創傷治癒の問題を中心課題とするが、創傷治癒が関与する内科系の問題にも注目するなど出来るだけ幅広いテーマを取り上げる。

再生医療の分野だけでなく各方面の研究で得られた知見を積極的に臨床面に取り入れていく姿勢を明確にする。

広く横断的な学会なので「創傷」に関わる各分野間の研究面での連携を計り、各分野をまとめた形の学会としたい。興味深い臨床的なテーマには積極的なプロジェクト活動(多施設共同研究など)を展開すべきである。

アカデミックな姿勢を維持することは大切であるが、学会が盛り上がるためには数のパワーも重要であるため、看護職など本学会における医師以外の医療関係者の参画をさらに推進し、創傷処置の新しい方法や薬剤などについての教育的プログラムを強化してゆきたい。

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume17 No.3に掲載されました。論文名、著者(筆頭執筆者または第2執筆者)は下記の通りです。

投稿規程に関しましてはジャーナルホームページ、<http://www.wiley.com/bw/journal.asp?ref=1067-1927&site=1>より入手してください。また各巻頭に掲載されておりますInformation for authorsをご参照下さい。なお、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

市岡 滋 先生(埼玉医科大学 形成外科)

「Validity of the orthopedic POSSUM scoring system for the assessment of postoperative mortality in patients with pressure ulcers」
P. 312 ~ 317

小野 一郎 先生(札幌医科大学 皮膚科)

「De novo follicular regeneration of the skin by wingless int 3 and bone morphogenetic protein 2 genes introduced into dermal fibroblasts and fibroblast growth factor-2 protein」
P. 436 ~ 446